

平成 28 年度千葉県水産振興審議会 栽培漁業・資源管理部会
議事概要

- 1 日 時 平成 29 年 1 月 31 日（火）13 時 30 分～15 時 30 分
- 2 場 所 教育会館 604 会議室
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり（委員は 9 名出席 1 名欠席）
- 4 概 要

部会長が欠席したため、あらかじめ指名された柴田委員が部会長代理となり議事進行を行った。

- (1) 水産動物の種苗の生産、放流及びその育成に関する平成 28 年度実績及び平成 29 年度計画について（協議）

資料 1 及び資料 2 により漁業資源課、水産総合研究センター（以下「水総研」という。）及び公益財団法人千葉県水産振興公社（以下「振興公社」という。）から説明があり、原案どおり承認された。

【質疑応答等】

委 員： マダイの 2016 年の漁獲量はどうか？

水総研： まだ統計としては出ていないが、市場では水揚げが多いと聞いている。

委 員： クルマエビの調査状況は？

水総研： 漁獲量から放流効果を調査している。また、放流効果を上げるため、干潟に集中放流している。

委 員： 器械根、御宿岩和田、南房総市千倉沖にマダカアワビを放流しているが、状況はどうか？

水総研： 千倉沖に放流したマダカアワビについては、追跡調査を実施し放流地で放流種苗を確認している。また、成長している事も確認した。器械根については、水深が深く、調査が難しいところであるが、継続調査することが重要と考えている。

委 員： 器械根には、長期間、アワビの放流を行っている。効果が上がるように、水総研には支援いただきたい。

委 員： アサリは、全国的に生産量が低調で、千葉県も同様である。アサリ生産量が増加するよう県の支援をお願いしたい。

トラフグについては、千葉県で放流したものは県内で獲れるのか。移動についてはどこまでわかっているのか？

水総研： 千葉県で漁獲されているトラフグは伊勢・三河系群と考えられており、系群の移動範囲は広域である。現在、千葉県で放流した時の移動範囲を調査している。これまでの結果として、県

内採捕以外に神奈川沖で1尾が採捕された。

委員： マダカアワビは、水深15～20mに放流し調査を実施しているが、天然物は水深3～4mでも生息している。浅い所で放流調査しようという考えはあるか。

水総研： クロアワビとマダカアワビは遺伝的に近種であり、交雑する事が確認されている。交雑がおきないように放流するのが放流技術の基本なので15m以深で放流調査しているが、実際に浅い漁場にもマダカアワビが生息していることは確認しているので、検討する必要があると考えている。

(2) 資源管理型漁業の実施状況について

資料3により漁業資源課から説明があった。

(3) 漁場整備に関する平成28年度事業実績及び平成29年度事業計画について

資料4により漁業資源課から説明があった。

(4) (公財)千葉県水産振興公社の平成28年度事業実績及び平成29年度事業計画(案)について

資料5により振興公社から説明があった。

(5) その他「新規魚種に関する研究状況について」

資料6により水総研から説明があった。